

2-49

207
472

梅子日記

旅行案内記

此記八尾ヨリ加茂マテ及ビ奈良ヨリ八尾マテヲ漏セリ是レ他日一泊旅行若クハ終日旅行ノ際ニ東道ヲ行クトテ

ナリ又風色形勢等ノ如キ目撃シ易キモノハ總テ之ヲ省畧セリ

伊勢史 舊記ヲ案スルニ古ハ國府ヲ鈴鹿郡ニ置ク今ノ國府村大字國府是ナリ降テ源賴朝ノ天下ヲ一統スルヤ平賀

朝雅、大内惟信相繼テ守護ヲ建武中興ノ際北畠顯能國司ニ任シ志摩ヲ兼知シ子孫世々一志郡ニ居リ其任ヲ襲

グ足利尊氏ノ叛スルヤ仁科義直ヲ以テ守護トナス義長ノ南朝ニ降ルヤ義詮、土岐賴康ヲシテ守護タラシム後北

勢ノ四十八族相攻等シテ數十年間干戈止ムルナカリシガ顯能ノ玄孫政具ニ至リ勢ヒ再ヒ強ク諸族ヲ勦討シテ

全州ヲ一統ス政具ノ玄孫信意ニ至リ織田信長ノ二子信雄ヲ養ヒ嗣トナシ、ガ天正四年(三二四)信長遂ニ信意ヲ

幽シテ之ヲ併吞ス豊臣氏ニ至リ蒲生氏郷ヲ封シテ松坂ニ居ラシメシガ後ヲ封テ會津ニ移シ氏家行廣ヲ桑名ニ封

ス徳川氏ニ至リ菅沼定房ヲ長島ニ一柳貞盛ヲ神戸ニ、松平忠明ヲ龜山ニ土方雄久ヲ薦野ニ藤堂高虎ヲ阿濃津ニ

本多忠勝ヲ桑名ニ封シ之ヲ治セシム又別ニ山田奉行(度會郡小)置キ神宮神領ノ事ヲ司ラシム王政維新ニ際シ度

會府ヲ山田ニ移シ之ヲ改稱シ諸藩ヲ廢シテ安濃津、度會ニ縣トナシ尋テ之ヲ廢シ三重縣ヲ置ク

地理(東ノ伊勢ノ海ニ面シ志摩ニ連リ南ハ紀伊ニ接シ北西ノ二方ハ美濃尾張近江伊賀大和ニ界シ東西十二里南

北二十七里戸數十三萬、人口五十八萬、山岳各所ニ崛起シ群山蜿蜒トシテ北境ニ起リ南西ニ走リ三國山、藤原

岳、御在所山等トナリ伊賀近江ヲ疆ギリ西邊ニハ國見山、大臺原山ノ高峻アリ大和ニ界ス共ニ海面ヲ抜ク一

萬尺以上トス國中ノ大川ハ木曾川、ヲ首トシテ朝明、町屋、内部、雲出、櫛田、宮川等トス共ニ伊勢ノ内海ニ

注グ



人情風俗及ビ物産 人情輕薄ニシテ淳朴ノ風ナク生計ノ道ニ長シテ商賈尤モ慧黠ナリ米、麥、菜種、茶、蜜柑、和布、青海苔、海蝦、時雨蛤、熨斗鮑、縵子紗、木綿織、生糸、陶器、菅笠、春慶塗、紙等ハ重要ナル産物トス

名 邑 名邑ニハ桑名、四日市、神戸、白子、津、松坂、田丸、宇治山田、關、龜山、一身田等アリ何レモ殷盛ナ極ム

いでやこれより山田町
両宮拜禮のしるべせん
はしをわたせて宮川町
もみあひへしあひキートコセ
一志久保に宮後町
外宮に別宮、神苑内
祭器、農具又米作法
出れば目につく重盛楠
岡本町には裁判所
商家はいらがを打交へ
お屋根のさくら花盛り
小田のはしより尾上町
垂仁皇女の倭ひめ

名斗り宇治の市街の中
遠きはおとに近ければ
ますぐお茶屋町、堤世古
千代かつるはぬ常盤町
館町一つに廣小路
徴古館ではちはやふる
巡拜巡觀まどすめば
とるにも足らぬ古跡也
警察署お郵便局
車馬の通行いとしげし
高倉山につゞみが嶽
古市、中の町、浦田町
尾部坂もとは間の山

大路小路をめぐりつゝ、
見さしやすらん度會川
筋向ばしの落合ひは
下中之郷町、八日の市場
北の御門にさしかゝり
神代のつるぎ機道具
東又向ひて一ノ鳥居
右手は神苑、豊川町
神風講社に一新講
町の南ハ豊宮崎
ひかひあわして笑顔する
町の左又尾部の宮
お杉お玉はいまも猶

ゆきかふ人のなげ錢に
琴平神社は町の北
川の中にはかゞみ石
高ても低くても左でも
老も若さも幼子も
おさへ

生業をすこそうたてけれ
中の切町、今在家
三ツ石基盤 鮑石
右でも前でも後でも
しはたれ衣かつぎつゝ
罵りさわぐ川の瀬の
上と下との中つ瀬に
やがて宇治橋打渡り
千代もくもらぬ鏡なれ

坂と下りてやまと町
流れも清き五十鈴川
はてくれくはておくれ
洩さぬあみとどりとに
はればかつうけはづせば
あなれに立てる女子は
さか手を打ちて禊する
皇太神宮の廣前に

宮 川 度會川、豊宮川ノ別稱アリ源チ大臺ケ原山ヨリ發シ多氣度會二郡ノ諸水チ集メ北流シテ宇治山田ノ西チ過ギ大湊村大字小林ヨリ伊勢ノ海ニ注グ長サ凡ソ三十二里餘河身ハ深淺廣狹ノ差多ク夏時暴雨到ル毎ニ滿漲ノ患アリ

定 家

契ありてけふ宮川のゆふかづら永き代までもかけて頼まん
宇治山田町 モトハ浦田町(相の山)ヨリ北チ山田ト稱シ南チ宇治ト稱シタルチ明治廿二年地方制度改革ノ際之ヲ合シテカク呼稱スルコトナレリ人口凡二万八千六百二十八(廿七年調)古史チ按スルニ宇治ハ内ト稱シ山田ハ陽田又ひなれたト稱セリ當時ハ鼓爾タル一小村落ニシテ人烟稀少ナリシニ神宮遷祀以來賽客ノ來往頻繁ナルニツケ漸次戸口増殖シテ現今ノ繁盛ヲ致シ、ナリ物産ハ山田和工、春慶塗、宮木箸、篠笛、茶、傘、赤福餅等ナリ
外 宮 豊受太神宮、豊の宮、度會ノ宮トモ稱ス山田町ノ南端山田ヶ原ニ鎮座ス近傍一帯ノ丘陵チ高倉山ト稱ス

宮城廣大社殿宏麗ニシテ本社ニハ豐受太神(生物主宰ノ)ヲ祀リ瓊々杵尊、天兒屋根命、天太玉命ヲ配祀ス抑當宮御鎮座ノ起原ヲ尋ヌルニ人皇第廿二代雄略天皇即位廿二年九月(二四二)天照太神ノ神託ニ因リ丹后與謝郡真名井ヶ原ヨリ此ニ遷シ大廟ニ配祀ヲ給フ皇太神宮ノ御遷座ニ後クハ、實ニ四百八十二年ナリ多賀の宮、土の宮、風の宮、月讀の宮、之ヲ四所の宮ト稱シ攝社十六、末社八座アリ宮城ハ八十一町歩、外宮接續ノ神苑ハ一万五千餘歩、菑社、勾玉池、徵古館等アリ徵古館ハ古代ノ武器、農具、工織の具、祭器、舟車等ヲ陳列シテ考古ノ寶トスル所ナリ(高倉山ニ上ルコトハ町許ニシテ高倉ノ岩屋アリ上古ノ古墳ナラン)

掛卷くもかしこき豊の宮柱直さ心をそらふ知るらん

俊成

宮崎文庫 山田町大字岡本町ノ南郊ヲ宮崎ト云フ慶安元年(今ヲ去ル)度會延佳(世々伊勢ノ)發起シテ此文庫ヲ建ツ今猶珍書異本萬部ヲ藏スト云フ境内ニ御屋根櫻アリ相傳フ文庫落成ノ年延佳ガ屋根ニ櫻苗ヲ生ズ延佳之ヲ異トシ此ニ移植セシナリト

猿田彦神社 浦田町ニアリ猿田彦命皇孫ノ御一行ヲ天ノ八衢ヨリ高千穗峯ニ導キ奉リ白女ノ命ト共ニ去リテ伊勢ニ至リ五十鈴川上ニ住ヘリト古史ニ傳フルモノ是ナリト云フ
皇學館 館モ亦同町ニアリ古典ヲ講究スル所ナリ

五十鈴川 宇治川ノ別稱アリ宇治橋之ニ架ス橋ヨリ上流ヲ御裳濯川ト云フ源ヲ志摩國英虞郡惠利原村ノ山間ニ發シ神路山ノ溪流ヲ合セ宇治ヲ貫通シ大瀑小瀑ノ諸水ヲ合シ鹿海村ニ至リ朝熊川ヲ受ケ汐合村ヨリ分派シ一ハ二見ノ浦一ハ今一色ヨリ内海ニ注ク宇治橋ハ永享三年(四七〇)足利將軍義教公ノ架スル所ナリ河中ニ神足石ト稱スル奇石ヲ出ス

君か代は久しかるべし度會やみもすそ川の流れ絶せま

匡房

内宮 天照皇太神宮、五十鈴の宮、磯の宮トモ稱シ奉ル我國ノ太廟ニシテ天照皇太神ヲ祭リ天手力雄命、萬豐秋津姬ヲ合祀ス此太神ハ天孫御降臨以來人皇第十代崇神天皇ノ御宇ニ至ルマテ宮中ニ奉祀セラレ玉ヒシニ天皇其神威ヲ演サンコト恐レ即位六年九月(一九九)皇女豐鍬入姬尊ヲシテ之ヲ大和國笠縫邑ニ遷シ祀リ奉ラシメ玉フ其後十一代垂仁天皇二十五年三月十日(一九〇)皇女倭姬尊ヲシテ更ニ五十鈴川上ニ遷シ祀ラシメ給フ御神体ハ傳國ノ御鏡、御劔ナリシガ十二代景行天皇四十年十月(一七九)日本武尊東夷御征討ノ途太廟御參拜ノ時倭姬尊神託ニ任セ奉リ御劔ヲ尊ニ附與シ玉フ熱田神宮ノ御神体是ナリ人皇四十代天武天皇二年(七一)御遷宮ノ式ヲ定メラレ爾后毎二十一年ニ此式ヲ舉行セラル維新ノ際ハ政務多端ナリシヲ以テ大ニ其式ヲ略セラレシモ去明治廿二年慶典ヲ興シ舊儀ニヨリテ嚴カニ遷宮式ヲ舉行セラレタリ宮城六十七町餘歩千歳ノ翠色滴タラントスル神路山其東南ヲ擁シ萬古涼々タル五十鈴川ソノ西ヲ限リ幽邃ニシテ壯嚴ナル賽人ヲシテ轉々仰向ノ念ニ禁ヘザラシム

何事のおはしますかは知らねどもかたじけなきに涙こぼるゝ

西行

然ルニ昨卅一年七月廿七日回祿ノ災ニ罹ラセラレ目下月讀の宮ニ御逗座アラセラル、トカヤ別宮七所アリ荒祭の宮、風日祈の宮、(以上宮)月讀の宮、伊弉諾の宮、伊弉册の宮、(本宮ヨリ)灘の原宮(本宮ヨリ)伊弉の宮(本宮ヨリ)ト云フ其他攝社二十五、末社十六座アリ神苑ハ本宮ノ西北ニアリ九千六百三十餘歩、兩宮ノ神苑ハ明治廿年一月ニ起工シ廿二年十二月落成シタリト云フ

右に朝熊を仰ぎ見て 内宮神苑の一隅より 山坂峠田島道
たどりくぐて中、楠部、 鹿海の村を東北へ 二里半ゆけば二見浦

朝熊山 宇治山田町ノ東二里餘朝熊村ニアリ伊勢志摩ノ國界ニ屹立シテ海面ヲ抜ク一七千七百尺内海ヲ隔テ、尾

參、遠チハシメ十八州ノ風景チ一陴ノ中ニ聚ムルチ得ベシ頂上ニ勝峯山金剛證寺アリ虚空藏チ安ス隨濟宗ニ屬シ欽明天皇ノ御宇(凡一三〇)僧曉堂(姓氏未詳白濱ノ僧ナリ)此山チ開創シ大同二年(一〇九)僧空海、元中七年(五一〇)僧東岳之チ中興ス九鬼守隆、徳川家康、頼宣等寺領チ寄附ス明治廿一年火災ニカ、リ太ク荒涼セリ寺ニ源義朝ノ大刀一口、徳川家康ノ基盤一面チ藏ス奥ノ院ニ富士見臺アリ香海菴ト稱ス山中 賣藥店アリ萬金丹チ露グ二見ノ浦 浦ハ雙鑑浦ノ別稱アリ後ニ音無山(江村ニアリ峰上ニ古松ニ株アリ里俗之チ國丸松又伊勢義盛物見ノ松ト云フ寺アリ大江寺ト云フ)チ負ヒ前ニ伊勢ノ海チ扣ヘ一抔ノ淡霽白砂青松ノ間チ瀾縹ス

櫻貝拾ふ二見ノ海士人は袖にも涙の花やさくらん

弘訓

著名ナル二ツ岩アリ海岸チ去ル若干間、大ハ高サ二十九尺小ハ高サ十二尺ナリ其近傍ニ蛙石、鯨石、鼻岩、雞冠岩、屏風岩等ノ奇石アリ又海岸ニ賓日館アリ館ノ樓上、富岳、白根山、御嶽等一望ノ中ニアリ此樓ハ明治廿一年三月英照皇太后宮陛下行啓アラセラレシトキ行宮ニトテ神苑會ノ建設セル所ナリ今陛下在サズ悲哉 歸路 茶屋町、三津の村 沙合橋を打わたり 黒瀬、久志本、川崎町 此よひは山田に一泊し 明朝未明に打そるひ 太神宮お拜辭しつ 度會橋をふみならし 小侯の村に明野ヶ原 新茶屋、下有爾、明星宿 齋宮の跡に蛙の澤 心ひなしき竹川村 稻木に壺や櫛田川 齋宮群行に湯津の櫛 流すハ故實ぞ八束穂の たり穂の稻の豊原村 川とは名ばかり下村上 垣鼻、松坂、忘井の 水に縁ある船江村 六軒、塚本、市場の庄 三渡宿に中道村 雲出の川をへだてつ、 遙かにお加長須ふしおがみ 小野江の宿や小森村 藤方、垂水、通りぬけ

一日十里の長道中

足をひきすりようくに

安濃の市につきぬべし

明野ヶ原 小侯村チ過ギテ道ノ右傍一帯ノ平原チ明野ヶ原ト云フモト廣漠ナル原野ナリシガ近來大ニ開墾シ既ニ四五百町歩ノ田畠チ得、三重縣、勸農場、製糸場、養蠶傳習所、獸醫講習所、牧場等ノ設アリ 齋宮趾 齋宮村大字御館、街道ノ右側ニ鬱々タル森村ノリ是レ齋宮ノ舊跡ニシテ東西四十五間、南北六十七間文久中(凡四〇)藤堂高猷建議シテ之ヲ再興セントセシモ世故多端ニシテ遂ニ果サズ又同村大字蛙の澤ニ齋宮花園ノ跡アリ當浦叢生シ花時ハ恰モ紫氈チ布クガ如シ齋宮トハ昔ハ天皇御即位毎ニ齋宮卜定ノ御式アリソレニ叶ヒシ皇女チ下シテ五十鈴宮ニ齋キ仕ヘシメ玉フ事ハ垂仁天皇ノ御宇倭姫尊ニ始マル其頃ハ五十鈴川ノ邊ニ官舎ノ設アリシニ景行天皇ノ朝今ノ所ニ移シ竹の宮ト稱シ代々ノ齋宮内親王ヨ、ニ座ス後醍醐天皇ノ朝兵亂ノ爲メニ 廢典トナル

機殿 竹川チ過キテ禊川アリ昔ハ勅使チ此川ニ迎ヘテ禊チ修スルノ式アリ其右遙ニ隔テ、多氣郡大垣内ニ神服織機殿神社、飯野郡井ノ口ニ神麻績機殿神社アリ兩機殿是也毎年四月九日絹布ノ神糸チ織リテ内宮ニ獻スルヲ後花園天皇(四七二)ノ頃マデハ嚴重ナリキ

櫛田川 源チ伊勢、大和ノ國界高見山ニ發シ北東ニ向テ飯野郡チ貫流シ蓮川チ合セ法田村ニ來リ稻木川(藤原川別稱アリ)チ分流シ松名瀬村チ經テ海ニ入ル長サ十七里櫛田橋之ニ架ス全長四百八十尺傳ヘ云フ倭姫尊齋宮群行ノ時此橋チ過キ湯津ノ爪櫛チ水中ニ落シ玉フ故ニ以テ川ノ名トシ爾後群行ノ時ハ必ズ此橋ヨリ櫛チ投シ玉フノ式アリト

君かすむ櫛田川にやみだれたる神の心も打ちとけぬらん

俊頼

下繩小川 東岸江村ニアリ源チ山室村ノ谿間ニ發シ高町屋村チ經テ海ニ入ル此地昔シハ勅使ノ神宮ニ到ル先ツ此

川ニシテ驛鈴ノ聲ヲ止ム因テ此川ニ架スル橋ヲ鈴止橋ト云橋側ニ鈴止松アリ高十五間圍ミ一丈七尺枝葉延ヒテ方十間餘

さて松坂のしるへせば 愛宕町には藤の棚 かはりゆかしき梅の森
平生町の練油 湊町の老伴亭 それを打過ぎ日野町
四辻左にとりゆけば 黒田町とて紀州街道 本道行けば中の町
町の出口を右すれば 観音小路の繼松寺 越ゆれば本町四の辻
左にとれば魚町よ 山室神社、公園地 坂内川を打渡り
西町にては大信寺 川井ノ町こそ松坂の 西の端とは知られしか
松坂町 松坂ハ櫛田ニ一里十八町小野江ノ宿ニ二里八町南勢ノ中央ニ位シ北ハ津市ヨリ西ハ紀州和州ヨリ南ハ宇治山田ヨリ輻輳スル所加之近來大口港(松坂ノ東南二十丁許)ニ内海定期航行ノ小汽船寄港シテ市街繁盛ナリ重ナル市坊十八、人口一万四千六百七十人(廿七年調)物産ハ松坂木綿、鬘附油、梳油等ヲ重ナルモノトス此地維新前後ハ紀伊大納言ノ領ナリシヲ以テ城代ヲ遣シテ在鎮セシメタリ(公園條下參看セヨ)
梅の森 梅林中ニ寺アリ菅相寺ト云フ徳川頼宣ノ創立ニシテ天神祠アリハシメ紅白二株ノ梅アリ並の梅ト云ヒ地ヲ梅の森ト稱ス後年本居宣長數十株ノ梅ヲ移植ス寺ハ臨濟宗ナリ
老伴亭 菓子商店ニシテ藤村景嘉ト稱シ湊町ニアリ東漢ノ古瓦ノニ模シタル菓子ヲ製シ老伴ト名ツク蓋シ白香山ノ談交唯對水老伴舞如鶴ノ句ニトレルナリ明治十三年主上御通輩ノ際勅旨ニ叶ヒ御注文ヲ蒙リシヨリ一層著名ノ一品トナレリ近來五十鈴川、御裳濯川ト稱スル菓子ヲ製セリ題シテ曰
皇神の御裳濯川の流れにぞひきくらぶべきものやあからん

松坂公園 殿町ニアリ古昔ニハ四五ヨイテの森、宵森、四蘭生の御園ナド稱ス元龜元年(三三〇)北畠氏ノ臣潮田長助始テ此ニ城ヲ築ク其后天正十二年(三二六)織田信雄、豊太閤ノ隙アリ太閤因テ蒲生氏郷ヲ一志郡松島城ニオク同十六年信雄ヲ那須ニ放ツニ當リ氏郷コ、ニ移リ松坂城ト改ム氏郷、會津ニ轉シ服部一忠、古田重勝相繼テ移リ遂ニ紀州侯ノ領トナル徳川氏一國一城ノ制ヲ定メシヨリ天主、門櫓ヲ毀ツ明治十四年五月官ニ請フテ公園トナス面積凡ソ三千坪、境内ニ慈悲神社(祭神ハ應神天皇)南龍神社(徳川頼宣)天満宮アリ
山室神社 本居宣長ヲ祀レル所ニシテコハソノ分社ナリ翁ガ佩刀ヲ神主トシ平田篤胤ヲ配祀ス本社ハ松坂ヲ巨ル西南約二里花岡村大字山室字高峯ニアリ明治十三三七月勅使參向アリテ金幣ヲ下賜セラレ
本居宣長ハ其系平頼盛ニ出ツ頼盛ノ苗裔伊勢ニ來リ北畠國司ニ仕フ北畠亡ビテ後其子孫松坂ニ來リ買入トナル宣長少ヨリ産業ヲ事トセズ京師ニ遊ビテ醫術ヲ修メ寶曆七年(一四三)歸リテ少兒科醫業ヲ開ク難波ノ契仲阿闍梨(大阪東平野町)及ヒ加茂真淵(旧安中納言ニ仕ヘテ江都ニアリ)ノ書ヲ讀ミ大ニ感奮シテ皇學ヲ修ス古事記傳、玉勝間等ハ實ニ翁ノ述作スル所ニシテ著書甚ク多シ紀州侯ノ恩遇殊ニ厚ク名聲籍甚來リ學フ者頗ル多シ宣長深ク心ヲ王室ニ存シ古典ヲ攻サメ舊記ヲ暗シ神道ヲ説キ儒佛ヲ排ス其教科ニ用ヰシ書ハ古事記日本記古語拾遺等トス國學中興ノ祖ナリ翁鈴ヲ愛玩シ多ク古鈴ヲ集メ鈴廬屋ト号ス(中町ニ松屋トテ其古鈴ヲ換シタル菓子アリ鈴の屋ト名ツク)翁年六十一歳ノ時自カテ像ヲ寫シ一首ノ歌ヲ添フ
敷島の大和心を人どはば朝日に匂ふ山さくら花
享和元年九月(九九)年七十二ニシテ歿ス
大信寺 西町ニアリ六歌仙ノ一人ナル僧正遍照貞觀十一年(一〇)ノ創立ニシテ今猶其木像ヲ安置ス境内ニ老松アリ雲達松ト云フ其下ニ寺記アリ之ヲ詳ニス四代ノ主安念僧正ハ義氣ヲ存ス世之ヲ義僧ト稱ス

安念ハ慈心ノ法弟ナリ北條義時ノ陪臣ノ身ヲ以テ暴威ヲ逞フシ朝廷ヲ輕シ將家ニ權ヲ振ヒ天下ノ蒼生ヲ困シムルヲ憤リ多田滿仲ノ弟下野守滿快ノ裔泉親衛(管方絶倫當時其匹)ト謀リ建保元年(六八七)故將軍賴家ノ子千壽丸ヲ奉シテ北條氏ヲ滅サントシ諸國ヲ巡錫シテ諸將ノ參同ヲ求メ千葉成胤ニ詣ル成胤之ヲ縛シテ義時ニ送ル同年八月十六日義時ノ爲ニ殺サル

白米城 久米村ノ西ニ丘阜アリ應永三年(五〇四)北島滿雅城ヲ丘上ニ築ク后足利義滿、鳥海重澄ヲ此城ニ攻ム寄手ノ兵水道ヲ絶テテ城中大ニ渴ス重澄寄手ノ兵ヲシテ退屈セシメントテ白米ヲ以テ馬ヲ洗ラヒ城中水ノ乏シカラザルヲ示シテ敵ヲハカルト故ニ今尙此名ヲ存ス

雲出川 南勢北勢ヲ分ツ大河ニシテ一志郡西南隅八幡村大字川上ニ發源シ北流シテ竹原ニ至リ八手俣川ヲ合セ屈曲シテ東流シ更ニ長野川ヲ合セ矢野村ヨリ内海ニ注グ長サ十五里餘足利氏織田氏等屢々此ニ交戦セシマアリ

香良洲神社 矢野村ノ海濱白砂渺々トシテ際涯ナキノ處老松一帶森林ヲナシ清波ニ蕪シテ立ツ濤聲ノ婆々ハ松韻ノ瑟々ト相和シ海濛一仙境ナリ松林中ニ香良洲神社アリ稚日女命ヲ祀ル欽明天皇ノ朝創立シ所ナリト云神路、朝熊ノ諸山双眸ノ間ニ落ッ入口ノ左右ニ櫻樹數株アリ蒸シ蛤ハ此地ノ名物ナリ

藤方浦 一ニ藤瀉ト書ス藤水村大字藤方ノ東方一帶ノ海濱ヲ總稱ス古ハ磯山ト稱シテ有名ノ地ナリ遙ニ志摩ノ諸山ヲ烟波ノ間ニ望ムベシ眺望頗ル佳ナリ

藤瀉よこさひらさきの色貝は幾しは波の染かへしけん
西行櫻 垂水山成就院ハ大字垂水ニアリ昔ハ七堂伽藍ノ大地ニシテ白河法皇伊勢行幸ノ時寺領ヲ寄附セラル本尊ハ大日如來ナリ元龜年中(凡ソ三三)兵火ニカ、リ大ニ荒涼セリ院内西行櫻アリ西行法師連歌ノ古跡ナリト云其歌ニ曰

さるちとど見るより早く木にのぼる犬のようなる法師來れば

津市	お入りて藤枝町	八幡町の右側に	聳ゆる森ぞ結城の宮
阿漕町	を打過ぎて	辨財町と閻魔堂	右に折れては立合町
岩田町	に裁判所	伊豫町を経て岩田川	右おまがりて分部町
左へ折れて地頭領		宿屋町に中之番	大門町おは觀音寺
これこそ當市ひき拔きの		にぎはふ街としられけれ	大門町の出口より
右へと取れば東町		東町、萬町丁字、形	萬町を眞直に
ゆけば名高き京口町		南にひけば丸の内	城跡背に負ひ北を向き
すゝめば西町、塔世町		塔世の大橋踏ならし	左を見れば療病院
縣會議事堂巍々乎たり		橋の詰より川又沿ひ	數町下れば安濃の松原
眞直又行けば榮町		左に藥師堂、四天王寺	中茶屋町には三重縣廳
餘慶町の入口を		左に折れて行く二町	當縣無二の公園地
折れずて行けと部田の町		これにて二里の津の市も	漸く通り果てにける

津市 當國ノ中央ニ位シ東ハ阿漕浦ニ臨ミ贊崎港ヲ擁シ岩田、塔世ノ二川市ヲ横斷シテ内海ニ注クモトハ塔世橋以北ヲ部田村、岩田橋以南ヲ岩田村ト稱ヘシニ明治廿二年市制施行ニ際シ之ヲ合一シテ市制ノ下ニ立ツトセリ此地一名安濃津ト稱ス東西一里二町南北一里二十町市坊八十八、人口二万九千二百五十三人(廿七年調)ヲ有ス今當市ノ沿革ヲ綜ヌルニ往古天延(九二七)貞元(九二四)ノ際、平正衡ノ子安濃津ノ三郎此ニ治シ其子清衡正盛、忠盛等相繼テ居ル其後大ニ降リテ細野藤敦、織田信昌、富田知信等相繼ク慶長十三年(二九二)徳川氏、

藤堂高虎ヲ三十五萬石ヲ以テ此ニ封ス維新ノ際ニ名高カリシ安濃津ノ藩主ハ實ニ其子孫ナリ本市ハ四方ノ貨物日ニ輻輳シテ車馬、船舶ノ出入往來恰モ織ノガ如ク街衢到ル所般賑ヲ極メ富商家戸軒ヲ並ヘテ一縣下ノ商權ヲ握レリ其尤モ盛昌ナルハ大門町、分部町、伊豫町ナリ物産ハ阿漕燒、茄子團扇、津縵子、杓子餅、縞木綿等トス

當市元標ヨリノ距離

- 東 京 百十四里廿三町
- 大 坂 三十六里廿六町
- 奈 良 廿二里十五町
- 宇治山田町 十里一町
- 松 阪 四里二十二町
- 上 野 十二里二町

結城神社 八幡町ノ右側ノ石標ヨリ東ニ入ル一町松柏森々タリ八幡の森ト云フ林中ニ社殿アリ結城宗廣及其子光親ヲ合祀ス結城神社是ナリ

結城入道々忠宗廣ハ南朝ノ忠臣ナリ元弘三年(五六七)奥州ヨリ上リテ吉野ニ參リ尋テ第八ノ皇子義良親王(後村上天皇)ヲ奉シ下リテ奥州ヲ鎮セントシテ兵船五百餘艘ヲ伊勢國度會郡大湊ニ藏シ九月十二日纒ヲ解キシガ天龍灘ヲ過グル時颶風暴カニ起リ海上浪高ク風劇シク吹キ荒ミテ兵船盡ク四散漂流ス宗廣ハ第八皇子ノ御船ニ陪乘セシガ七晝夜ニシテ安濃津ニ漂着ス十日許リ滯留シテ風待シケル中ニ重病ニカ、リ遂ニ劍ヲ按シ切齒シテ没ス墳墓久シク草菜ノ裏ニ埋レタリシガ文政七年(七六)藤堂高尙其墓ヲ修理シ新ニ碑ヲ立テ自ラ結城神君之墓ト題シ儒臣津坂孝綽ヲシテ其功績ヲ碑陰ニ記サシム明治十三年七月聖駕巡幸ノ時祭祀料ヲ下賜セラ、同年川口常文ナルモノ縉紳ヲ歴訪シテ金ヲ醴集シ社殿ヲ起シテ大ニ神靈ヲ慰メシガ明治十五年一月朝廷、宗廣ノ精忠ヲ追嘉シ別格官弊社ニ列セラレタリ今左ニ太平記ノ一節ヲ抄出シテ其精忠ヲ示サン

渡海の順風を待ちける處に俄に重病をうけて、起居も更に叶はず、定業極まりぬと見なければ、善知識の聖、まぐらに寄りて、此程まではさりとどこぞ存し候ひつるよ、御勞り日も随ひて重らせ給ひ候へば、今は御臨終の日遠からじと覺て候、相構へて後生善所の御望情る事あくして、稱名の聲の中お、三尊の來迎を御待ち候ふべし、さても今生おは何事をお思召しかかれ候、御心よかゝる事候はゞ、仰せおかれ候へ、御子息の御方様へも傳へ申し候はんといひければ、此入道已に目を塞がんとしけるが、かつばと跋ね起きて、からくと打笑ひ、戰さたる聲にていひけるは、我已に齡七旬及びて、榮花身にあまりぬれば、今生よ於ては、一事も思ひ残す事候はゞ、只今度罷り上りて、遂に朝敵を亡ぼし得ずして、空しく黄泉のたびに赴さぬる事、多年廣劫までの忘念とありぬと覺候、されば愚息よて候大藏權少輔にも、我後生を吊はんと思はゞ、供佛施僧の作善をも致すべからせ、更ニ稱名讀經の追貢をもなすべからせ、只朝敵の首をとりて、我墓の前にかつばと見すべしといひおさけるよし傳へて給はり候へど、是を最後の詞よて、刀を抜きて逆手に持ち斷齒としてぞ死にける (廿卷)

阿漕が浦 津市ノ東大字津興ノ海濱一帯ヲ云フ白砂青松相連リテ風光佳絶ナリ、小祠アリ阿漕平次ノ幽魂ヲ祭ルト云フ、此説固ヨリ信ズルニ足ラザレハ謠曲、院本等ニ其事アリテ世ニ著ル蓋シ古今六帖ノ

逢ふ事を阿漕かしまにひく鯛のたび重ならば人知りぬべしノ歌ニ附會捏造セシモノナルベシ碑アリ句ヲ刻ス

月の夜のなを阿古木に啼く千鳥

こせ

阿漕燒 岩田橋ノ南ヨリ三町ハカリ東ニ當リ松濤亭ト稱スル陶器製造所アリ主人久八ナルモノ古ノ安東燒再興ノ志ヲ起シ嘉永二年(五一)ノ頃長崎、京都ニ陶製ヲ學ビ苦學十年終ニ其妙術ヲ得テ製造セシニ古ノ安東ニ少シモ

劣ラズ世ニ之ヲ再生安東ト賞讃ス

觀音寺 惠日山觀音寺ト稱ス大門町ニアリ當市ノ中心点ニ當ルヲ以テ群集ノ人常ニ絶エズ本尊ハ如意輪觀音ノ石像ニシテ秘佛ナリ傳ヘ云フ元明天皇和銅二年二月一日(一九一)一漁夫アリ阿漕浦ニ網ヲ下シテ觀音ノ石像一軀ヲ得タリ乃チ一字ヲ草創シテ之ヲ安置ス事獻聞ニ達ス勅シテ伽藍ヲ津興村ニ建ツ後年地震ノ爲メニ其地陷没シテ海トナル即チ今ノ地ニ移シテ諸人ノ仰向イヤマヤリシガ石田三成ノ兵火ニカ、リテ堂塔燒失ス其後藤堂高虎大ニ修營シテ歷世ノ菩提所トセリ

舊城址 慶長年中(凡三〇〇)藤堂氏封ヲ此ニ受ケ奕世之ニ居ル明治維新ノ際城郭ヲ廢毀シ樓櫓ヲ破壞シテ本丸、西ノ丸ハ唯石壘ヲ存ス東ノ丸ハ老樹蔚然トシテ繞ラヌニ濠ヲ以テス之ヲ内堀ト云ヒ多ク遺テ生々四圍ニ土壘アリ外濠ヲ繞ラヌ北ノ城門ヲ京口門、西ヲ伊賀口門、南ヲ中島門ト稱ス是ヨリ以テ内ノ丸ノ内ト云フ今ハ陸軍省ノ所轄地タリ中ニ師範學校、高等女學校等アリ又有造館ノ趾アリ館ハ文政年中(凡八〇)城主藤堂高尙大ニ文武ヲ獎勵セントテ之ヲ起シ津坂孝綽ヲ以テ督學トス是ヨリ文武ノ士彬々トシテ輩出セリ明治四年封土ノ奉還ト共ニ之ヲ廢シ今ハ大林區署ノ苗圃トナレリ

四天王寺 塔世山四天王寺又護國殿ト稱シ榮町ノ左側ニアリ曹洞禪宗ニシテ本尊ハ大日如來ナリ天平九年(一一六)聖武天皇諸國ニ四天王寺建立ノ勅ヲ下シ玉フ此地帝都(平城)ニ近キヲ以テ諸國ニ先チテ建立セリ久安三年(七五三)加藤景通堂宇ヲ再興スソノ後屢々兵火ニカ、リ悉ク烏有ニ歸ス、文祿三年(一六二四)信長ノ母公土田氏此寺ニ逝去ス現ニ其塚ヲ存ス慶長五年(一六〇〇)石田治部少輔三成叛亂ノ時兵火ニカ、リ元和五年(一七一)太守藤堂高虎堂舎ヲ再修ス今ノ堂宇是ナリ境内ニ七不思議ト稱スルアリ何レモ取ルニ足ラヌヲナリ寶什ニハ空山筆、達磨像、王羲之ノ大文字、東坡ノ筆、墨竹、雪舟ノ筆、觀音ノ像等アリ何レモ稀品ナリ

藥師堂 又醫王殿ト云フ四天王寺ノ境内右像ニアリ本尊藥師如來ニシテ聖德太子ノ建立、至ノ景清ノ再興ナリ創立ノ初ヨリ此一字ノミ兵火天災等ニカ、リシヲナシト云フ

公園 下部田町ニアリ地ハ一小丘ニシテ塔世川(安濃川)ニ枕ム園中多ク杜鵑花櫻樹ヲ點植ス園ノ廣サ數町歩四圍高ク中凹ミ凹ミ極リテ池トナル形瓢ノ如シ鯉魚潑刺トシテ躍ル曲橋アリ池ニ架ス池傍ニ象觀亭、耕省亭、等アリ清麗閑雅ニシテ群峯ノ翠色、内海ノ帆影悉ク一眸ノ中ニ入ル其他廣明館、博物館等アリ園池モト藤堂氏ノ別業ナリシガ維新後大ニ荒蕪ニ屬セシガ明治十年四月當時ノ縣令岩村定高、官ニ稟シテ公園トナス藤堂氏モ亦其樹石亭榭ヲ寄附セリ苑内ニ高山神社アリ藩祖高虎ヲ祀リ四月五日、十月五日ヲ以テ祭典ヲ行フ園後ニ三重縣物産陳列場アリ縣下ノ產物悉ク一場ニ集マル

ゆくれば一行うちつれつ	津の市街つゞき西の方	停車場より瀛車にのり
一身田を左に見	下ノ庄、龜山、關、加太、	伊賀、伊勢、近江の境なる
三國ノ山を右にみし	柘植を左に佐那具、右	音に聞ゆる上野町
左に見つゝ島ヶ原	過ぐれば山城大河原	梅に名を得し月の瀬の
木の間をわけし名張川	長田の川に落合ひて	わから泉の名をぞうる
有市の鑛泉見下して	行宮遺趾に名も高さ	笠置の驛に着くあらん
そが沿道は話すべき	名所舊蹟澤なれど	歩みも早き瀛車の中
今は一二よとゞびべし		

專修寺 高田山專修寺ト号シ一身田ニアリ眞宗專修寺派ノ本山ニシ祖師ノ像ヲ安ス寺域一万八百六十四坪本堂ハ二十四間四面傍ラニ阿彌陀堂アリ十八間四面本尊ハ一寸八分閻浮檀金ノ阿彌陀如來ナリ本堂ノ右ニ對面所、講

堂、鐘樓、白鷺池アリ阿彌陀堂ノ左ニ廟堂アリ境内ニハ櫻樹ト垂柳ト植込ミテ春ハ錦ヲ織リナシヌ、サテモ寺傳ヲ尋ヌレバ元仁年中(六七六)祖師親鸞上人下野國芳賀郡大内ノ庄柳島ノ地ニ一字ヲ草創シ高田山ト稱号ス其法孫眞佛上人一向專修ノ旨ヲ弘メテリシニ後堀河天皇寺號ヲ專修阿彌陀寺ト賜ヒ勅願所トナシ玉フ八世ノ法孫大僧都眞惠、加賀、越前、近江ニ弘教シ伊勢ニ入り寛正五年(四三六)今ノ地ニ伽藍ヲ建築シ翌年本尊ヲ移シ來ル文明九年(四二三)後土御門天皇即位ノ初メ給旨ヲ賜フ其文ニ曰「專修寺門流任先規不可有相違」ト歴世之ヲ例トス織田信長モ亦當寺ニ於テ軍人乱暴竹木伐採ヲ禁止スルノ制狀ヲ寄ス十二世法孫義惠ノ時ニ至リ准門跡ニ叙セラレ豊臣德川藤堂氏モ寺領ヲ寄附セリ今ハ直末六百二十五ヶ寺ヲ有ス

龜山町 石川日向守六万石ノ舊城下ニシテ戸數一千六百餘戸人口七千七百八十餘人ヲ有ス東海道五十三次ノ一ナリ驛内ニ鈴鹿郡役所區裁判所警察署等アリ關西鐵道ハ二線トナリ一ハ名古屋ニ至リ一ハ柘植ニ向フ公園ハ西ノ丸ニアリ面積二千百坪舊龜山牙城ノ地ナリ此城ハ天正十七年(三一)岡本宗憲ノ築ク所宗憲、石田治部少輔三成ノ叛ニ黨シ封ヲ除カル、ニ及ヒ數々其主ヲ代ヘ遂ニ石川氏ノ領スル所トナル

關町 東海道及ヒ大和街道ノ要衝ニシテ戸數六百九十五戸人口三千六百八十餘人ヲ有ス龜山町ニ一里廿三町坂ノ下ニ一里廿一町此地大字關臺ハ鈴鹿古關ノ趾ナルヲ以テ今尙町名トナリテ存セリ抑々此古關ハ大化二年(一二五)始テ之ヲ設ク其後廢置數回織田氏以來復々之ヲ設ケ當町ノ名物ハ關の戸ト稱スル菓子トス

ふりし名をこゝにどゝめて鈴鹿山世に音高き關の戸の餅

季 鷹

地藏院 關町大字新所ニアリ眞言宗ナリ天平十三年(一一五)僧行基ノ草創ニシテ天長年間(凡一〇七)僧應宣堂宇ヲ再建ス寺内ニ蝦夷櫻アリ花時ノ賞觀ニ可シ(櫻ノ傳説)
上野町 舊藤堂氏分城ノ地ニシテ戸數三千二百、人口一万三千七百六十二人(廿七年調)阿山郡役所、區裁判所

等アリ商戸軒ヲ並ベテ繁盛ナルト此國第一トス公園ハ丸の内ニアリ舊城天主臺ノ遺趾ナリ此城ハ筒井順慶ノ築キシ所ニシテ一名ヲ白鳳城ト稱シ規模宏大ニシテ輪奐ノ美ヲ盡シタリシガ廢藩ノ後悉ク破壊セリ其他市中ニ龍谷山廣禪寺念佛寺等ノ巨刹アリ名産ハ長崎菓子トス此地大和月ノ瀬ヲ巨ルト三里名張町ニ四里六町松尾芭蕉ハ此地ノ出身ナリ(或ハ曰、柘植)

觀音提寺 島ヶ原村ニアリ僧實忠ノ草創ニシテ眞言宗ナリ寺域三千七百三十坪堂宇頗ル宏麗ナリ天平四年(一一六)實忠ハ奈良東大寺ノ僧ナリ長辨僧都ノ法弟ニシテ行徳共ニ高ク時人ノ尊崇ヲ受クルト太甚タ他ニ踰エタリ二月

堂下ノ若狹の水ハ實忠ノ感得シタル所ナリト云フ

木津川 輪韓川、泉川(異説)桃川等ノ數名アリ水源ヲ伊賀ニ發ス一チ上野川(一名長)ト云ヒ一チ名張川ト云フ上野川ハ流レテ山城相樂郡北大河原村ニ入り懸崖百五十丈ノ大瀑トナリ雄臺、雌臺ノ巨岩左右ニ屹立シ明神ノ大瀧ト名ツク風景奇勝ナリ名張川ハ大和山邊郡、添上郡ニ入り月の瀬ノ梅峽ヲ貫流シ相樂郡田山ニ至リ二川相會シ西流シテ笠置山ノ北麓、瓶原ノ南邊、木津祝園ヲ經テ綴喜郡八幡町ニ至リ淀川ニ入ル

みかのほらわきて流るゝ泉川いづみきとてか懸しかるらん

有市炭酸泉 笠置村大字有市、木津川ノ中ニアリ岩石隙ノ間ヨリ湧出ス泉質ハ炭酸氣ニシテ曹達及ヒ鹽鉄土分少許ヲ含ミ其温度ハ華氏四十六度内外ナリ味酸美ニシテヨク消化力ヲ助ク又肺病咳嗽、慢性眼疾等ニ効アリト云フ

笠置山 南笠置ノ上方木津川ノ南岸ニ屹立シ海面ヲ拔ク八百尺山勢雄偉ニシテ峻岩怪ヲ爭ヒ樹木鬱葱トシテ溪水流テ競フ北ノ山腹ニ紀念碑アリ題シテ行宮遺趾ト云フ高廿五尺巾二十尺文字ノ大廿方四尺五寸實ニ二品彰仁親

王殿下ノ御染筆ナリ毎字金ナ填ス能ク遠望シ得ヘシ明治十九年夏起工同年十月竣工セリト云フ山中ニ福壽院アリ即チ解脱上人ノ開基セシ鹿鷲山笠置寺ノ殘坊ナリ山上ニ笠置石アリ寺傳ニ云白鳳十二年(七二二)天武天皇此山ニ遊獵シ給ヒシニ大鹿アリ刺棗ヲ排シテ跳リ出テ帝ヲ追ヒ參ラセ、イトモ危ク見エサセ玉フ帝大ニ驚カセラレ一心天ニ向ヒテ祈誓ヲ籠メ玉ヒシカバ御料ノ駿馬一匹シテ遂ニ虎口ノ危難ヲ免レ玉ヒタリ帝ハコ、ニ謝恩ノ爲ニ伽藍營造ノ願ヲ起サセラレ御召ノ蘭笠ヲ置テ後ノ標識トハナシ玉ヒヌ斯クテ其後侍臣ナシテ御笠ノ所在ヲ求メシメ玉フニ白鷺飛來リテ之ヲ示セリヤガテ大石ニ彌勒ノ佛像ヲ彫刻シテ本尊トシ文珠、藥師ノ兩大石ヲ内ニ籠メテ大伽藍ヲ營造シ鹿鷲山笠置寺ト名ツケ玉ヒシトツ降リテ元弘元年八月廿七日(五六九)北條高時ノ逆心ニヨリ畏クモ後醍醐天皇此山ニ幸臨シ玉ヒ逆徒勦討ノ聖籌ヲ運シ玉フ逆賊北條ノ東兵ハ翌九月一日宇治ヲ發シ雲霞ノ勢ヲ以テ山下ニ着シ日夜攻メ奉レ山ハ峻峻ニシテ攀テ難ク兵ハ鉄腸ニシテ移スベカラズ百方防禦保守シテ二十余日ヲ支ヘタルニ同月廿九日ノ夜ノ烈風暴雨ニ乘シ間道ヨリ奸賊陶山、小見山等ノ夜襲スル所トナリ爲メニ事不意ニ破レ帝ハ是非ナク藤房以下三人ヲ召具シ赤坂ヲカシテ落チ玉フ其時ノ御有様ヲ太平記ニ一足おは息すみ二足には立留り晝は道の傍なる青塚の影に御身を隠し夜は人も通はぬ野原の露を分迷はせ給ひ三日まで御食を断しかば君臣どもに足たゆみ身疲れて今はいかなる目に遇ふとも逃ぬべき心地もせされば幽谷の岩を枕にて現の夢に臥したまふに梢を拂ふ松の風を雨の降るかど聞し召して木かげに立寄りせ給ふ、下露のはらりと御袖にかゝりけるを御覽して

さしてゆく笠置の山を出しより天が下にはかくれがもかし
藤房卿なみだを押へて
さかにせんたのむ陰とて立よれいなほ袖ぬらす松の下つゆ

此時本寺ハ兵燹ニカ、リ巨剎大殿一夜ノ中ニ鳥有ニ歸セリ是ヨリ諸堂名跡ノ案内セン

名功の地藏 此傍ノ大石ニ元弘ノ戰ニ討死セシ義士ノ名ヲ刻セシニ震災ノ爲メニ轉覆シテ今之ヲ見ルハ能ハズ故ニ地藏ヲ安シテ之ヲ後昆ニ傳ヘントテカクハ名ツケシナリ○笠置寺 眞言宗鹿鷲山笠置寺ト稱ス即福壽院ニシテ廿余院ノ一ナリ近頃マテ福壽、多聞、文珠ノ三院ヲ存セシモ二院ハ轉滅セリヨリテ近年福壽院、笠置寺ノ稱ヲ冒セリ○鐘樓 鐘ハ建久七年八月(七〇四)解脱上人ノ鑄ル所高三尺徑二尺二寸厚一寸八分○駒止の松 天武天皇再ヒ御登山ノ時御料ノ馬ヲ繫ギ玉ヒシ所今ハソノ幾代目ノモノナルヲ知ラズ○椿本殿 延喜八年(八九二)日藏上人金峰山椿本大明神ヲ勸請ス當山ノ鎮守ナリ○藥師石 高サ四十四尺巾三十一尺○文珠石 高サ二十二尺、巾十六尺○彌勒石 高サ五十二尺、巾四十二尺、以上ノ三石ハ當山ノ本尊ナリシカ元弘ノ兵火ニカ、リ佛像湮滅セリ○金剛石 高サ四十尺、巾三十六尺○胎藏界石 高サ四十八尺、巾二十七尺以上二石ヲ兩部石ト云フ○虚空藏石 高サ四十二尺、巾二十四尺、弘法大師ノ作、佛像顯然タリ○太鼓石 繫テハ太鼓ノ響アリ陶山、小見山ノ夜襲ハ此邊ヨリ上リシモノ、如シ○ゆるぎ石 周圍三十尺、高サ人長、指突ヨク搖スヲ得ベシ○平等石 高サ二十五尺、崖下ニ不動尊ノ石像ヲ安置ス之ヲ東ノ硯ト云フ、西の硯ハ彌勒石ノ上ナリ○行宮趾 當山ノ最高所ニシテ廣サ三百餘步彌勒石ノ頭上ニ連ル蓋シ元弘以前伽藍ノ一部分ナリシト見ユ(一説ニ云、帝ハ當市ニ御駐登マシメシタ)彼ノ

うかりける身を秋風に誘はれておもこの山のもみぢをぞみる

ト御製アリシハ此處ナラン○笠置石 高サ五尺、長サ十尺、藥師石ノ上ニシテ天武天皇ノ御笠ヲ置カセラレシハ此石ナリト云○貝吹岩 直高十六尺、斜高三十六尺、元弘ノ戰ニ此岩上ニ立テ陣螺ヲ吹キテ懸引ヲ指揮セシナリト云フ○解脱上人の墓 山ノ東方谷ヲ隔テ、遙ニ見ユ○千手の瀧 上人ノ墓ノ邊ニ在リ傳云、京都清水寺

ノ觀音ハ此瀧ヨリ出現セリト(異説アリ)○毘沙門天 正成ノ作ナリト云
笠置をいで、北の方 雲に聳ゆる鷲峰の山
その又東奥 山田 信西法師の隠れ塚
木津の川岸たどくと たどりてこゝに錢鑄の村
錢鑄司置れし跡あるぞ 錢鑄の渡りを打ち越ぬて
寺よそ聖武の勅願所 九体の阿彌陀は天祿中
右の手遙に見渡せよ 川を隔てし松林
國分寺の跡ぞかし その又後の海修山
本尊身の長一丈餘 十一面の觀世音
大字里のわかれ路 右にと取れば京街道
岡田の宮を伏し拜み 衣鹿カ香山ハははれ堂
その名も清き梅谷村 奴須美志勢シ登少女子コが
上りつかりつ常盤ある 松ふく風に耳すまし
般若の坂に般若寺 頼長公の死所としれ
聖武の皇后光明子 貧民救治の古跡也
今在家を過ゆけば 左に大佛仁王門
天蓋通のつき當り 名斗り高き雲井坂
右には師範奈良縣廳 興福寺の花の松

金胎寺は眞言宗
平治の昔忍ひつゝ
村は和銅のそのひかし
西小に名高き九休寺
多田滿仲の寄進あれ
これを昔の恭仁の宮
是亦聖武の勅願所
やがて北村、加茂の里
左に行くは奈良の道
ならせの柿をよそよして
謠ひつ告げし市の坂
ゆけばさくさへおろしき
北山十有八間は
坂を下れば佐保の川
威徳井橋を打渡り
踏て驚く轟ばし
左は帝國博物館

春日の社をこなたより 拜みて足を西あせせば 三條通賑はしや
猿澤池に南圓堂 衣かけ柳、采女の社 あれぞ千古の名残なる
長の旅路も恙なく まだみぬ物やさかぬこと さゝもしみもし此三日
學の道に得し所 千萬無量と覺ゆ也 こよひはまゝに足やすめ
明日又未明に打揃ひ 幸川 御陵に參拜し 唐松提寺、西の京
皇居の遺趾を右手に見 龍田、王寺を跡よして 河内の國へと急ぐなり 郡山、小泉、法隆寺

鷲峰山金胎寺 相樂郡東和束村原山ノ上ニアリ當山ハ相樂綴喜兩郡ニ跨ル高嶺ニシテ坂路峻峻攀登スルコト二十八町許ニシテ漸ク本堂ニ至ルヲ得、堂ハ南面ニシテ行基ノ作、彌勒佛ヲ安置ス宗旨ハ眞言ニシテ開基ハ役ノ小角ナリ抑此山ヲ開キシハ白鳳四年(一三二五)ニシテ天竺ノ靈鷲山ニ模シ經營セシヲ以テ池多輪、妓樂岳、阿闍岳等ノ名蹟アリ又堂上ノ峻嶺ヲ空鉢臺ト云フ當寺ノ住僧泰澄所持ノ鉄鉢ヲ藏スル所ナリト

鑄錢村 我國鑄錢ノ舉其始原ヲ詳ニスルコト能ハズマ、續日本紀、和銅元年二月ノ條ニ始置催鑄錢司、以從五位上多治比、真人三宅麻呂任之トアリ又同年五月ノ條下ニ「始行銀錢」八月ノ條下ニ「始行銅錢」トアルニ依テ和銅元年ヲ以テ鑄錢ノ濫觴トハスレドモ猶是ヨリ古ルキモノアリヤ知ルベカラズ本村ハ即チ鑄錢司ノ遺趾ナリ然レト一ノ徵證スベキモノヲ存セザルハ慨嘆ニ堪エザルナリ因ニ皇朝十二錢ヲ示サン

錢文	御宇	鑄造年	錢文	御宇	鑄造年
和銅開珍	元明天皇	和銅元年 一九二年前	萬年通寶	淳仁天皇	天平寶字四年 一四〇年前

神功開寶	稱徳天皇	天平神護元年 一三五年前	隆平永寶	桓武天皇	延暦十五年 一〇四年前
富壽神寶	嵯峨天皇	弘仁九年 一〇八二年前	承和昌寶	仁明天皇	承和二年 一〇六五年前
長年大寶	仁明天皇	嘉祥元年 一〇五二年前	饒益神寶	清和天皇	貞觀元年 一〇四年前
貞觀永寶	清和天皇	貞觀十二年 一〇三〇年前	寬平大寶	宇多天皇	寬平二年 一〇一〇年前
延喜通寶	醍醐天皇	延喜七年 九九三年前	乾元大寶	村上天皇	天徳二年 九四二年前

恭仁都と國分寺の遺趾 恭仁宮ハ聖武天皇ノ宮居ナリ續日本紀天平十二年十二月(一五六)ノ條下ニ「右大臣橘宿禰諸兄、在前而發、經畧山脊國相樂郡恭仁郷、以擬遷都故也」又十三年正月ノ條下ニ「天皇始御恭仁宮受朝、宮垣未就、繞以帷帳」ト蓋此都ハ加茂、新原、木津、上狛等ニ亘リ鹿脊山以東ヲ左京トシ以西ヲ右京トセラレタルガ如シ萬葉歌ニ「やましろの鹿脊山ぎはみ宮ばしらふとしく立て、云々トアリ以テ証トスベキカ」國分寺ハ聖武天皇ノ勅ヲ奉シテ僧行基ノ草創ニ係リ伽藍僧坊等輪奐ノ美ヲ盡シタリシガ年ヲ閱スルノ久シキ次第ニ荒廢ニ歸シタリシガ中世淨土宗ノ僧再興シテ之ヲ守リ阿彌陀佛ヲ本尊トセリ
今其遺趾ヲ探ルニ大字例幣ト稱スル所ニ字東大門、西大門ト稱スルアリ其間ニハ國分寺ノ文字アル古瓦ノ斷片ヲ發掘スルヲ往々ナリ又國分寺金堂ノ中心柱石ナリトテ存スルヲモ見ル而シテ今ノ例幣村ハ恭仁宮趾區域内ナレハ余ハ斷シテ左ノ如ク明言セントス

天平十六年二月(一五六) 都を難波の宮(和)に迂し玉ひ恭仁の宮殿を捨て、寺とし行基をして之が開基たらしめ玉ひしもの即國分寺の開闢ならん(國分寺ハ各國ニ僧寺一、尼寺一) (ヲ必ス建立セシメ玉ヒシナリ)

因ニ云例幣ハ徳川家光日光山東照宮ニ勅使例幣アランコチ奏請シソノ料トシテ獻シタル地ナリ故ニ以テ村名トセリト

哀堂 壽永三年(元暦元年ニシ)二月七日平氏ノ軍一ノ谷ニ敗レ平重衡源氏ノ捕虜トナリ鎌倉ニ至リ源頼朝ニ對面ノ後、南都ノ僧徒ノ訴願ニヨリ之ヲ南都ニ賜フ僧徒之ヲ木津川原ニ斬ル其刑ニツカントスルヤ一タビ佛ヲ拜セント乞フ侍者友時スナハチ廢寺ノ佛像一軀ヲ平沙ノ上ニ安シ拜禮ヲ遂ゲシメタリ後チ一字ヲ營ミ其佛ヲ安置シテ重衡ノ冥福ヲ祈ル時之ヲ哀堂ト稱ス堂ノ北ニ首洗ノ池、ならす柿等アリ、因云重衡ノ遺骸ハ宇治郡醍醐村大字日野ニアリ哀堂ニモ十三重塔アレモタマ幽魂ヲ慰スルガ爲ニ築キシモノナリ

明治三十二年三月廿四日脱稿

馬ならぬ旅のかどでにのみなして

ことのとくさをはなむけにをむ

明治三十二年四月廿一日印刷
 同三十二年四月廿六日發行

編輯兼
 發行者

大阪府河內國中河內郡八尾村
大阪府第三中學校

印刷者

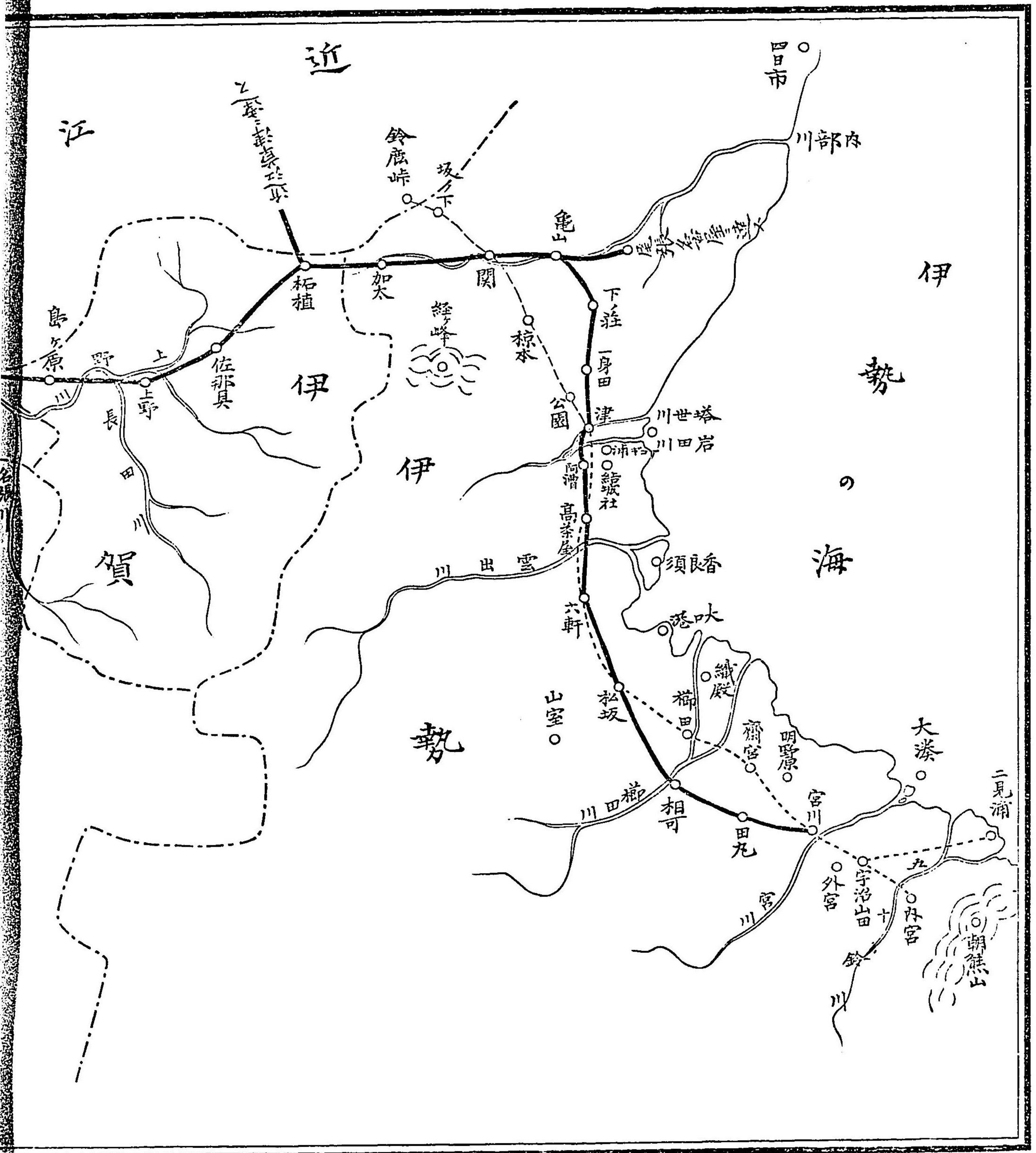
大阪市北區衣笠町廿一番屋敷

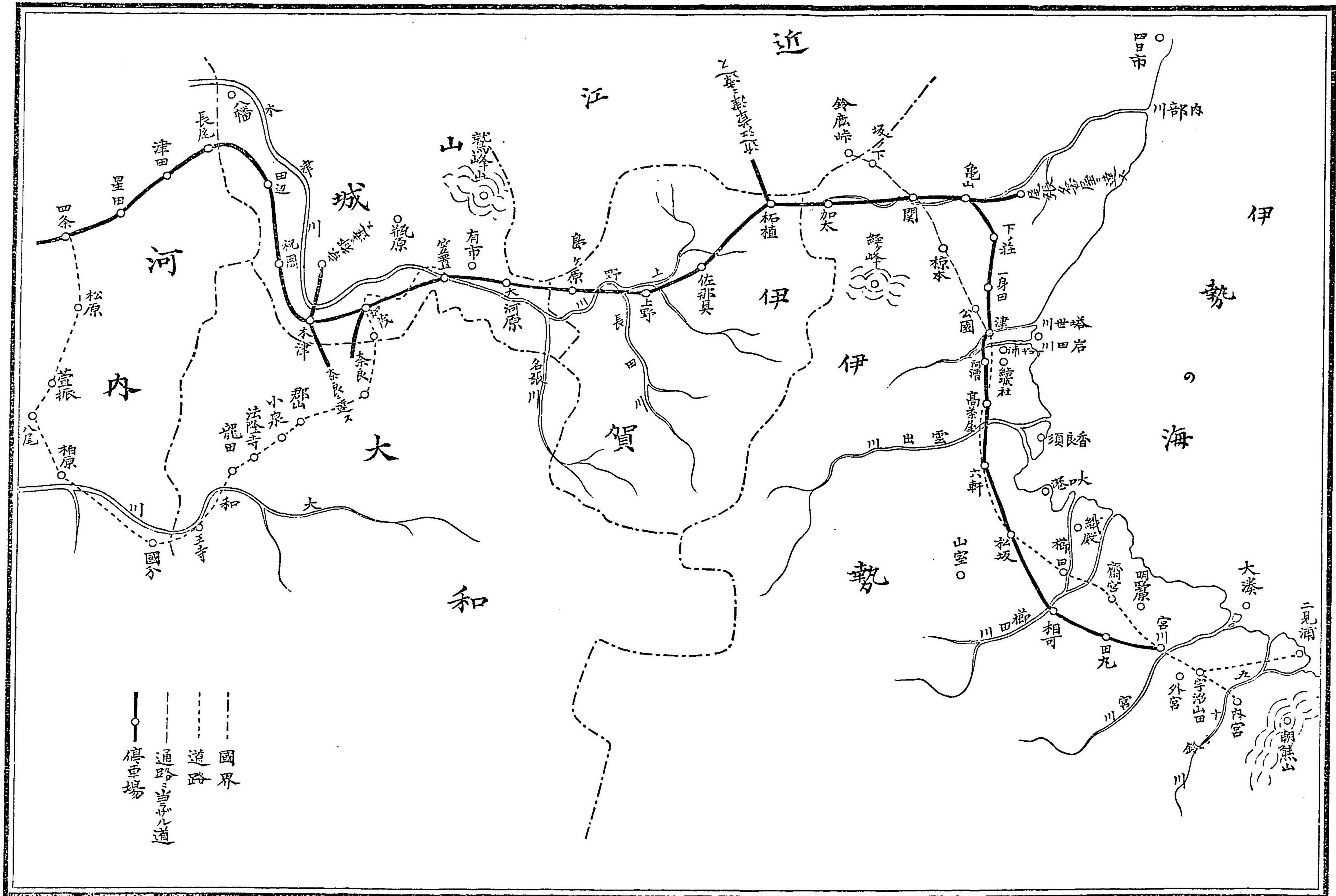
河內谷彦三郎

印刷所

大阪市北區衣笠町二番屋敷

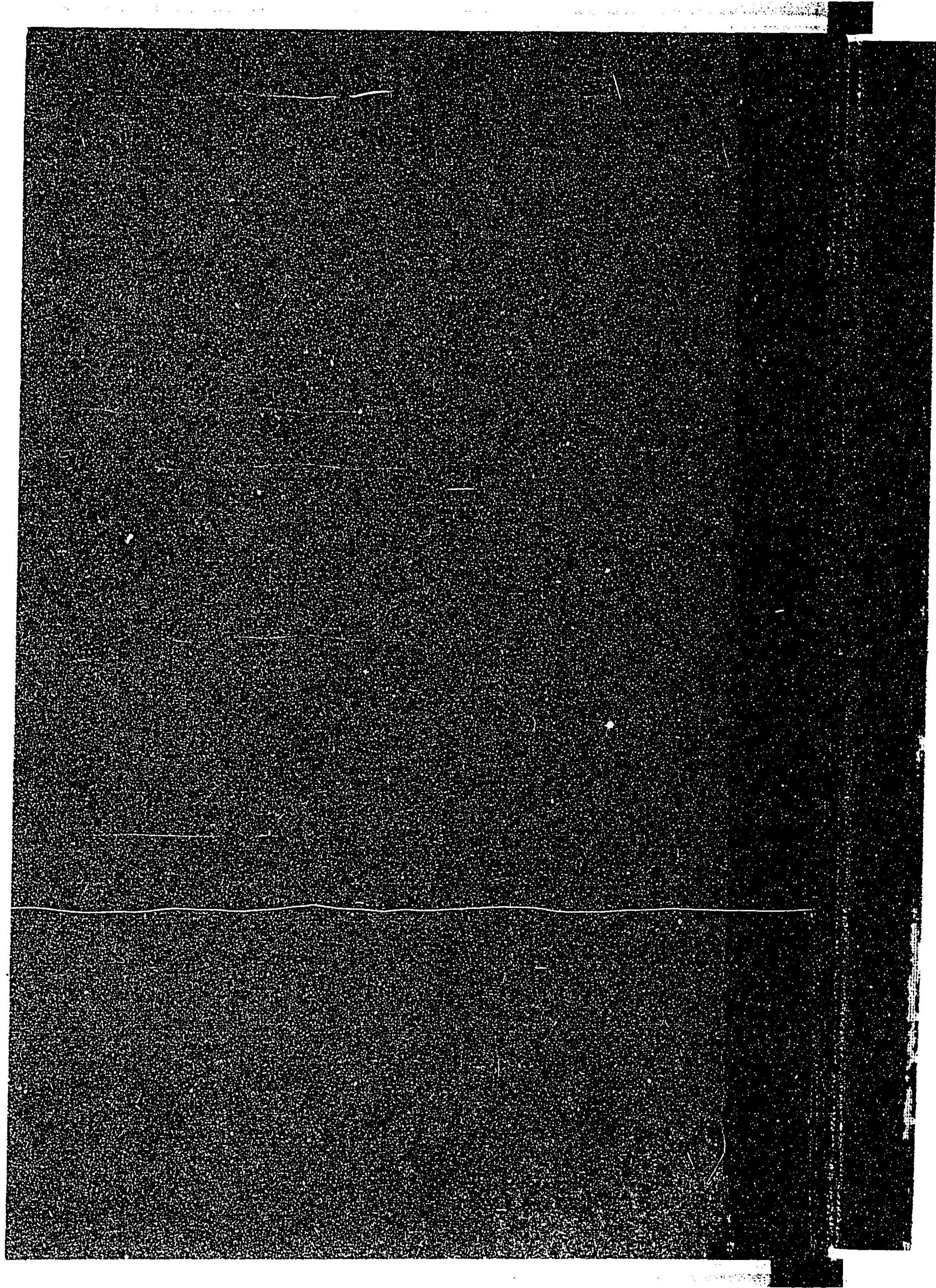
河內谷印刷所





○● 停車場
 - - - 通路
 - - - 道路
 - - - 國界

2-19



08
00

旅行案内記

国立国会図書館

025717-000-1

特48-526

旅行案内記

大阪府第三中学校 / 編

M32

ADC-3251



特

5